

Contact: Elaine Merguerian 212.327.9271

奈良美智大個展

ニューヨークのアジア・ソサエティーにて開催

展覧会

Yoshitomo Nara: Nobody's Fool

2010年9月9日 - 2011年1月2日

於 Asia Society, 725 Park Avenue, New York

オープン・スタジオ (協力 Park Avenue Armory)

Open Studio: Yoshitomo Nara + YNG

2010年8月23日 - 8月27日、期間中毎日午後4時から午後7時まで

於 Park Avenue Armory, 643 Park Avenue, New York



Yoshitomo Nara. *Untitled (1, 2, 3, 4 Man)*, 2008. Colored pencil on paper. H. 14 1/2 x W. 9 in. (36.8 x 22.9 cm). Private collection. Image courtesy of the artist.

この秋アジア・ソサエティーは、ニューヨークの美術館として初めて全館をあげて日本のネオポップアートを代表する奈良美智の大個展 *Yoshitomo Nara: Nobody's Fool* を開催します。素描、絵画、彫刻、そして大規模なインスタレーションなど、その多くは米国初公開となる100点をこえる作品の展示をとおして、奈良の過去20年の作家活動の全体像を紹介します。

1959年、青森県弘前市生まれの奈良美智は日本を含むアジア諸国でカルト的なファンを持ち、海外のアート・シーンにも影響多大なアーティストです。アジア・ソサエティーの展覧会 *Yoshitomo Nara: Nobody's Fool* は、特に奈良自身が一番のインスピレーションの源と明言するロックやパンク音楽と彼の作品との関係を探ります。

展覧会はアジア・ソサエティー美術館館長メリッサ・チウ (Melissa Chiu) と同館アシエート・キュレーターの手塚美和子 (Miwako Tezuka) による協同キュレーション。チウはこの展覧会を次のように説明します。「現在活躍中のアー

テイストを全館をあげての個展の対象にするのはアジア・ソサエティー美術館始まって以来のことです。現在までに重要な影響力を持つ作品を多々作り出してきた事を考慮すれば、奈良はまさしくこのような大規模な個展にふさわしいアーティストです。奈良のアートは、1990年以降顕著になった漫画やアニメとの関連から理解される日本のポップ・アートの典型例として今まで解釈されてきました。今回当館の展覧会では、このようなすでに確立された見方を打ち破る全く新しい解釈の糸口として、奈良の作品に頻繁に見いだされるロックやパンク音楽の影響を取り上げ、展覧会のテーマ構成やユニークなインスタレーションの作品を通して提示します。」

Yoshitomo Nara: *Nobody's Fool* 展開催を機に、カラー・イラストレーション満載の展覧会カタログが、アジア・ソサエティー美術館と米国大手出版社 Abrams から協同出版されます。全 271 頁におよぶこのカタログには、展覧会キュレーターによる論文、現代美術批評をリードするクリティックである松井みどりとマイケル・ウィルソン (Michael Wilson) による論文の他、奈良美智インタビュー、奈良のインスタレーションのコラボレーター豊嶋秀樹によるエッセー、さらに奈良の人気ブログ「Nara Voice」からの抜粋の初英語訳も掲載されます。

展覧会 3 つのテーマ構成



Yoshitomo Nara. *Remember Me*, 2005. Acrylic on paper. H. 55 x W. 55 1/2 in. (139.7 x 141 cm). Private collection, New York. Image courtesy of the artist and Marianne Boesky Gallery.

展覧会は 3 つのテーマ、Isolation (孤独), Rebellion (反抗), Music (音楽)、を主軸として構成されます。作品は各テーマのセクション内で過去から現在へとゆるやかに年代順に展示され、奈良美智独自のスタイルが生まれる過程において繰り返し扱われてきたモチーフや主題を明らかにします。絵画やドローイングなどの他には、新しくこの展覧会のためにコミッションされた大掛かりなサイト・スペシフィック・インスタレーションが 1 点、その他 2 点のインスタレーションもあわせて、奈良の作品のさまざまな形が豊富に展示されます。

Isolation (孤独)のセクションでは、素描、絵画、彫刻において奈良が頻繁にとり上げるキャラクター—例えば、大画面にただ一人大きな目でじっとこちらを見つめる少女や、何もない空間に立ちつくし物思う子犬のイメージなどが登場します。1980年代制作の初期平面作品は、ゆるりとした柔軟

性を持つタッチで描かれています。孤独感漂うこれらの作品は、あたかも弘前の小さな街で鍵っ子であった奈良自身の少年時代を彷彿とさせるようです。彼が描く一人孤独に佇む頭でっかちで大きな目の少女は、余分なディテールが削ぎ落とされ、そのイメージが表象する情感のみが強烈な印象を与えます。また、白い子犬は奈良の作品に頻出し、疎外感を象徴するアイコンとなっています。こ

のセクションの叙情性は、巨大化した3匹の白い子犬が寂しげに瞑想するギャラリー1室を使ったインスタレーションにも顕著に現れます。

Rebellion (反抗)と題されたセクションでは、怒り・憤り・高揚などの様々な感情の起伏が書きなぐりの詩のような言葉とイメージを通して最も直接的に溢れ出る素描の多くに焦点を当てます。奈良にとってドローイングは単なる絵画や彫刻作品の制作準備の一過程ではなく、重要な日々の思索活動の痕跡、言い換えれば身近な日記のようなものです。さらにこのセクションには、怒りの感情や反抗的な態度を示す子供たちが様々なシチュエーションで作家の分身として出現します。

Music (音楽)のセクションでは、奈良作品における音楽の重要性がハイライトとなります。

音楽は、世界中の多くの観衆を魅了する叙情的表現世界をつくり出す奈良の作家活動の基盤にある精神に機動力を与え続けてきました。奈良の作品の根底には、ロックやパンク音楽が代弁し多くの若者たちが共有する、反骨の精神、虚無感、憤り、不満などが息づいています。奈良は作品タイトルに曲名や歌詞を冠するのみでなく、たびたび実際に歌詞のフレーズを描き込みます。また、実際に描くモチーフ自体が、例えばラモーンズと直結するよう「ラモーナ」と名付けられる少女であったりします。素描や絵画作品の他に、このセクションでは、奈良の膨大な12インチ・レコード・コレクションから彼自身が厳選するレコード・ジャケットが、近年制作の陶器作品とともにちりばめられた展示が展開されます。奈良はこれまでに多くのミュージシャンやバンドへジャケット・デザインを提供してきました。例えばその中には、日本のパンク音楽の草分け的バンド、スター・クラブ、ドイツ・ニューウェーブ音楽シーンからはThe Birdy Num Numsなどが挙げられます。また奈良の描く子犬は、R.E.M.の2001年リリースのシングル「I'll Take the Rain」のCDカバーを飾るのみでなく、そのミュージック・ビデオのキャラクターともなりました。



Yoshitomo Nara. *White Riot*, 1995. Acrylic on cotton. H. 39 3/8 x W. 47 1/4 in. (100 x 120 cm). Aomori Museum of Art, 2597. Image courtesy of the artist.



Yoshitomo Nara. *Hyper Enough (to the City)*, 1997. Acrylic on canvas. H. 49 x W. 59 in. (125 x 150 cm). Rubell Family Collection, Miami.

さらに **Installation works (インスタレーション作品)** の数々は展覧会にインタラクティブな経験の場をつくり出します。奈良美智の音楽への関心を最も顕著に表す作品として今回の展覧会のハイライトとなるのは、奈良と豊嶋秀樹のコラボレーションから生み出される新しいコミッションの大規模なサイト・スペシフィック・インスタレーションです。奈良と豊嶋のコラボレーションは2003年に日本で始まり、以降二人は奈良の作品展示ス

ベースとして機能する「小屋」型インスタレーションを世界各地に作り出してきました。奈良、豊嶋、以下数名を含む制作チーム、YNG は、今回の展覧会にむけ、3つの異なるスペースのイメージが不思議に混合する構造体を、アジア・ソサエティー美術館の展示スペースにあわせてデザイン、制作します。これら3つのスペースとは、奈良にとって最も身近で大切なアトリエ、音楽の熱狂を生み出すコンサート・ステージ、そして多くの人々を誘い込む祭りの場としてのカーニバル・テントです。また、奈良+YNG が過去日本で制作した小屋型インスタレーション *Doors*、そして、*Untitled (formerly Home)* の2作品も、このたびニューヨークでの初めて再展示となります。

展覧会タイトル

展覧会タイトル
アメリカ南部ソウ
イター、ダン・
的アルバム
ングに由来しま
ーでの成功や名
ャン、ダン・ペ
トであり、アジ
ペンの独立精神



Yoshitomo Nara. *Untitled (Nobody's Fool)*, 1998. Watercolor on paper. H. 13 3/4 x W. 10 1/8 in. (34.9 x 25.7 cm). Collection of Peter Norton. Image courtesy of the artist.

関連プログラム

展覧会にあわせ

ローカル文化とのコネクションを探る関連プログラムが催されます。まず第一弾として、9月10日(金)午後6時30分から、アジア・ソサエティーの講堂に於いて、奈良美智とコラボレーター豊嶋秀樹によるトーク・イベント。その他にもパフォーマンス、フィルム、ライブ音楽コンサート、リーディング、トーク・イベントなど、展覧会会期中通して様々なプログラム・シリーズを予定しています。Yoshitomo Nara: *Nobody's Fool* のリード・スポンサーは The W.L.S. Spencer Foundation。メジャー・サポーターは Mori Building Co., Ltd.、そして Alex Appel in honor of her mother, Carol Appel。さらにこの企画は U.S. Institute of Museum and Library Services より主要助成を受けており、メディア・スポンサーは WNYC Radio です。

今回の展覧会を機にアジア・ソサエティー初の iPhone アプリケーションがリリースされます。Toura 社提供のソフトウェアを使った *Yoshitomo Nara app* は奈良美智自身がアイコンを特別にデザインし、展覧会の舞台裏、展覧会ウェブサイトでは見られないハイライト写真や、奈良からの引用文などを含むコンテンツ満載のアプリとなっています。

ルについて

Yoshitomo Nara: *Nobody's Fool* は、アル音楽を代表するシンガー・ソング・ラペン (Dan Penn) による 1973 年の伝説『*Nobody's Fool*』とそのタイトル・ソ。独自の創作精神を守るため、メジャ声を頑なに避け続ける生粋のミュージシ
ンは、奈良が尊敬してやまぬアーティスト
ア・ソサエティーでの展覧会タイトルは
への奈良からのオマージュでもあります。

ムとクレジット

て、日本の文化芸術とアメリカおよびグ

Park Avenue Armory 協力によるオープン・スタジオ: Yoshitomo Nara + YNG について



YNG, *Bintang House*, 2008. "KITA!!: Japanese Artists Meet Indonesia," Cemeti Art House, Yogyakarta, Indonesia. Photograph by Hako Hosokawa.
*Not included in the exhibition.

今回アジア・ソサエティーの呼びかけに賛同した Park Avenue Armory の協力のもと、奈良、豊嶋、以下数名を含む制作チーム、YNG は、*Home* の改造作業を Park Avenue Armory のスペースにて行いました。また、YNG の作業エリアのすぐ向かいに用意された小部屋は、奈良のテンポラリー・スタジオとなり、ここで奈良は素描やその他インスタレーションの一部としてアジア・ソサエティーで公開される新作を制作しました。YNG は資材の再利用や、奈良の新しい作品やどこかで発見した素材などを組み入れて過去に制作した既存のインスタレーションを改造・再構成し、新しい命を吹き込むことで知られて

います。5 日間のオープン・スタジオ期間終了後、インスタレーションと最新作はすべてアジア・ソサエティー美術館の展覧会会場へと移動され、展示されました。

奈良美智の彫刻作品 2 点を Park Avenue にて公開

Yoshitomo Nara: *Nobody's Fool* 展を機会に、Art Production Fund 企画、アジア・ソサエティー協力による、奈良美智の巨大屋外彫刻作品 2 点が 9 月 7 日から 11 月の下旬にかけて Park Avenue にて展示されます。2 点の彫刻は、まるで神社や寺院を守る狛犬のように、それぞれアジア・ソサエティーと Park Avenue Armory の正面玄関付近に設置されます。*White Ghost* と命名されたこの 2 点の彫刻は、奈良が度々描く子供や犬のモチーフを見事に融合した作品となっています。詳しくは www.artproductionfund.org 参照。

アジア・ソサエティー美術館とコンテンポラリー・アート

アジア・ソサエティー美術館は、米国内では珍しく 1990 年代初頭から、アジアの現代美術を継続的に展示、紹介してきました。当館企画のコンテンポラリー・アート展覧会の例として次のようなものが挙げられます：
Traditions/Tensions: Contemporary Art in Asia (1996); *Inside Out: New Chinese Art* (1998); *Edge of Desire: Recent Art in India* (2005); and *Hanging Fire: Contemporary Art from Pakistan* (2009)。この他にも、国際的に重要な作家であるモンティエン・ブンマー (Montien Boonma)、蔡国强 (Cai Guo-Qiang)、デイン・Q・レ (Dinh Q. Lê)、照屋勇賢 (Yuken Teruya)、張洵 (Zhang Huan) など、多くのアーティスト達のアメリカ国内初の個展を開催してきました。

住所： 725 Park Avenue (at 70 Street), New York City

開館時間： 午前 11 時 - 午後 6 時 (火曜日-日曜日); 午前 11 時 - 午後 9 時 (金曜日)

休刊日： 月曜、祝日

入場料： 一般\$10、シニア\$7、学生\$5、メンバーと 16 歳以下の方は無料。なお、金曜日の午後 6 時から 9 時まで入場無料。ただし、Independence Day 以降 Labor Day までの金曜日は 6 時閉館。

ウェブサイト：www.AsiaSociety.org/museum

#